

# 景観に観る合意形成

経済総合分析 木下 博之

未来はどこにあるのだろうか？

冬には種を  
育てよう

(landScala 趣旨書)

# アイデンティティと景観

ニアピン?

「調和」に向けて個々の存在を問う声



安らぎ

- ▶ お台場の景観は、建築家たちが都市計画まで携わったので自信があるという? (“おさまる”へ)
  - 伝統は?
- ▶ 京都タワーは、景観 (ヴァンパイア) に打ち込まれた杭のようだ。
  - 伝統に沿ったきちんとした「先進国らしい」「まともな」都市計画が必要だという (カー)。
    - 清溪川など、都市計画に縛られ美しいけれど記憶が断絶したという声も (五十嵐, p.99)。
- ▶ 景観とともに～らしさ (アイデンティティ) も失われてきた (松原)。
- ▶ 強力すぎる歴史的都市計画は、都市をテーマパーク化する。
- ▶ プライドがあれば、乱脈な開発は許されないはずだ (カー)。
  - プライドだけでは、過激な反対運動は惹起すれど都市計画を提起していく位置には立ちにくい、かと。

アイデンティティの発露が景観

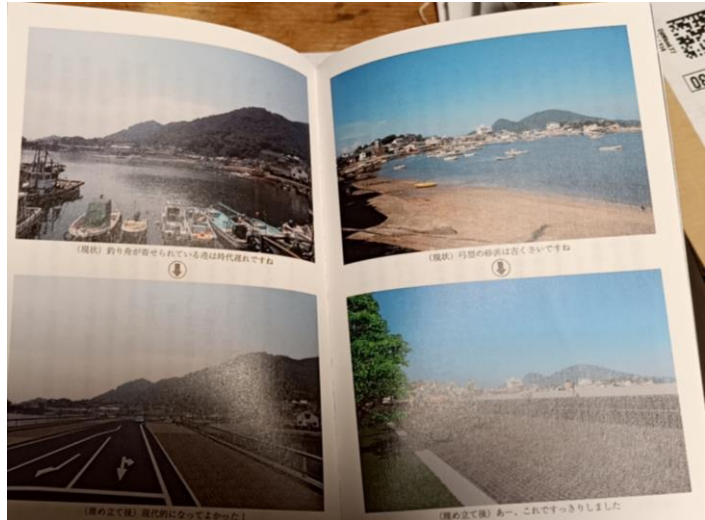
アイデンティティ  
→ 都市計画  
→ 景観

\* 景観論争論者たちは、高学歴でそれぞれの価値観とノウハウ、方策を提示するが、ニアピンで平行線を辿り統一の見解は見えない。現状は、金と権力が決済か?

# 景観に観る経済の四季

景観とは、伝統であり、かつ、  
未来像の投影である。

姿と魂が切り離され、  
ユートピアへの逃避。



(p.84-85)

外発的な需要への依存。

冬には  
種を育てよう。



(p.188)

秋とは夏を偲ぶ情景。

冬	A	春	P	夏	D	秋	C	冬	A
空	~1949	地	~1969	火	~1989	風	~2019	空	~2039

「時代が変わった」は得てして  
大げさで、季節が、。

季節の変わり目には、  
今の若いものは、と言いたくもなる。

日本は、  
気候の面で四季の国。  
ただ、克服するという  
意識が強い。  
世界経済の四季性には、  
むしろ、鈍感といえる。

主席は末席に。ただ、  
順繰りであって  
次第に色づいていく。  
Transional.

自由のために  
伝統に杭を打つべし  
とは本当ですか？

# 情景

当時の日本やドイツは、世界の季節感を読み違えたのでは？

国債を出しすぎる状況では、経済が国民というよりも野心家のものになるとは言える。破綻するかは、権威の範囲内で積み上げていけるものの野心が加速するので注意が必要。

教育、研究や福祉のためにある程度は国債を積み上げていける。そこまで緊縮することには注意する。利率で調整される。

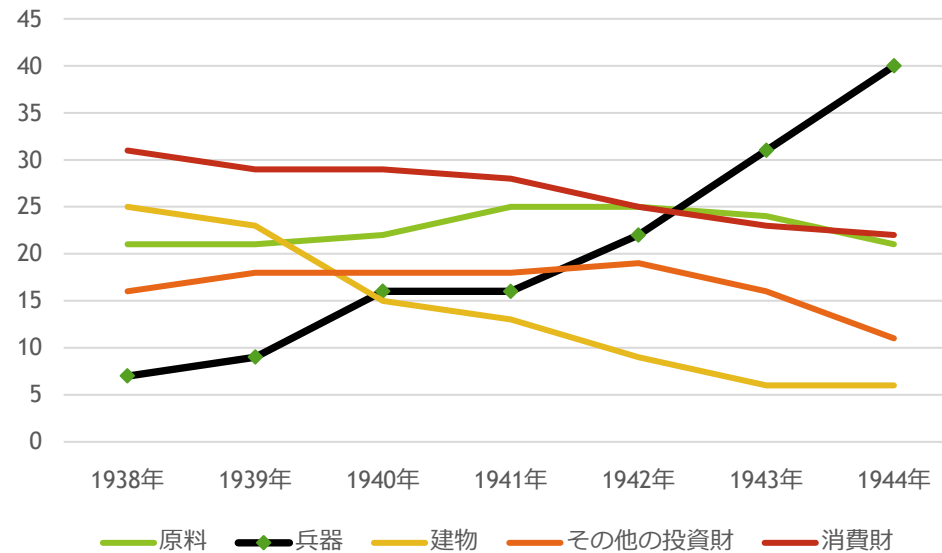
▶ ドイツにおいては、兵器分野のみが非常識なほどに上がり続けた

メフォ手形などで調達。

嵐は通り過ぎていく、本質を育てていく。

二流 確固たる姿 V	次の平面の 鼓動を聴く A	一流
三流 模倣者 文化、教養		

ドイツ工業純生産に占める各産業分野の比率 (%)



『ナチス・ドイツの経済』 (Wikipedia)

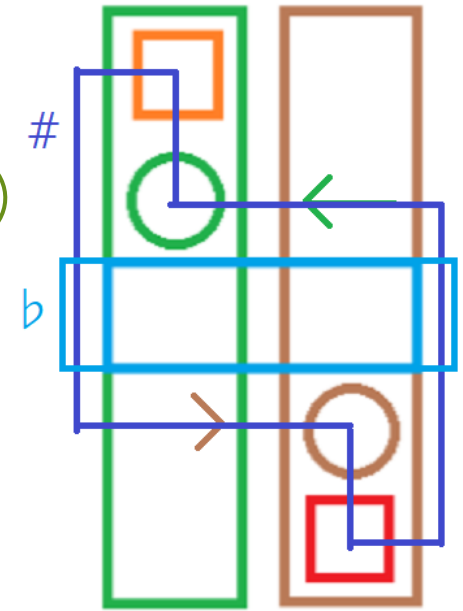
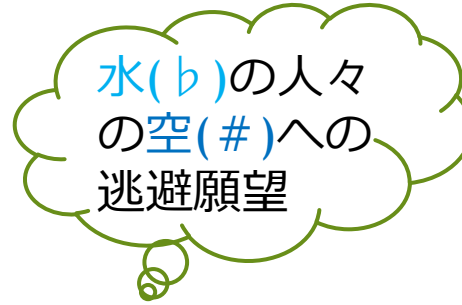
余裕のなさが感じられる。「美しい」ヴィジョンを掲げた手前、後に引けなくなった。

当時の情景、については、仲正昌樹(p.133-150)、に詳しく、承認欲求、エロ・グロと絡めて描かれている。

ナチスは各国を軍拡に向かわしめた大きな要因といえる。

# 時間,未来と景観

- ▶ 「未来的」は、得てしてユートピアへの逃避願望的。  
アイデンティティからも逃避したくなる。  
—某総統は未来を予言してなどいない。ユートピア願望は、  
人類が内面的に共有しており、それを一部言い当てただけでは？
- ▶ 世界経済の四季の巡り、約80年周期を  
乗り通していけることが、真に未来的ではなからうか？
- ▶ 伝統と自由とは相克の関係ではない。遷移するtransitionの  
形容詞系transitional は過渡的である。自由が伝統を形作ってきた。



vt配置図



## 行動と心理

v...value t...time

- ▶  $t \rightarrow v$  やりたいことへの理解、共感、集客を得たい。 landScala
- ▶  $v \rightarrow t$  ありたい姿を実現するために、やるべきことを。 elementcode





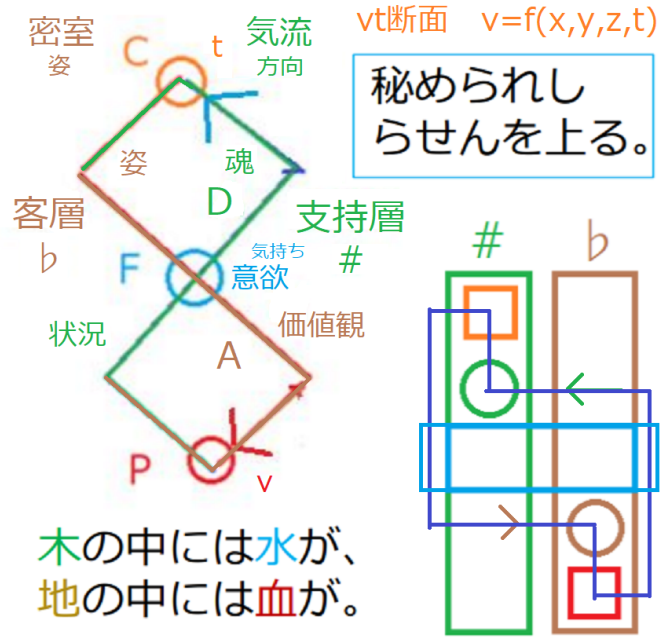
# 未来はどこに？

構造は、5次元。tpqrv。  
理論は、4次元。v=f(x,y,z,t)  
密度

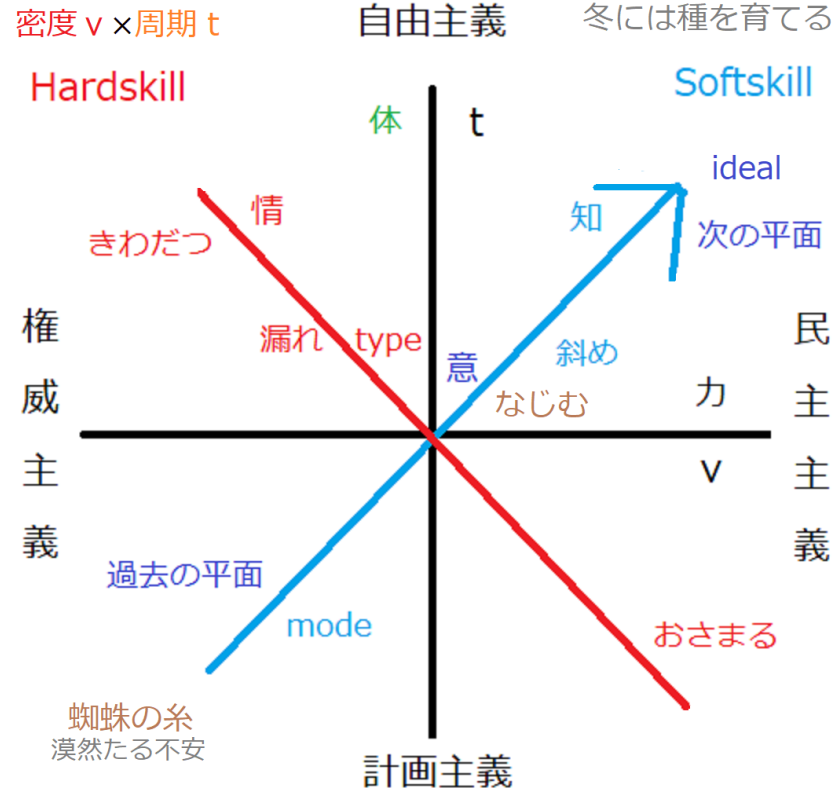
・ vt断面、横軸と縦軸  
いかに天寿tを幸せに過ごすか。  
生きる糧vは必要であるが  
自己目的だろうか？ Well-being

きわだつのか  
おさまるのか、  
というのは、  
右上か左下かという  
趣向の問題。

## 337. 世界の四季性



経済総合分析週報 2021/11/5 HK



## 振り子

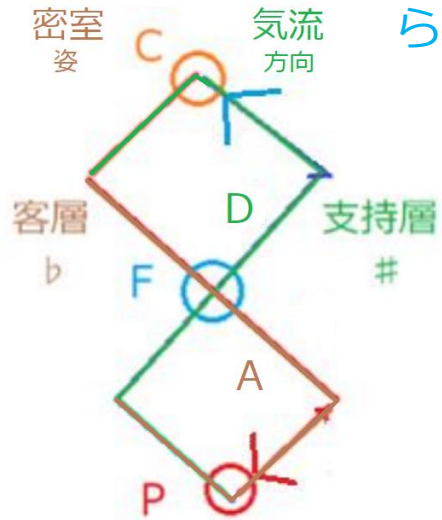
火や金は受け手。  
凡人、風、地こそが  
自分軸を発揮。  
水は包容。

重心を描けるのが、  
構造図である。

男性と女性  
植物と動物

# 次の平面

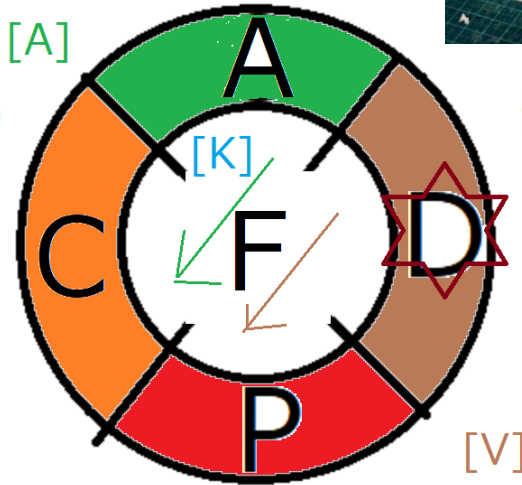
## 優美なる回廊



3つの見方  
 b 客層  
 # 本質性  
 # 支持層

## 平面

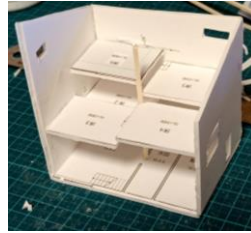
設計



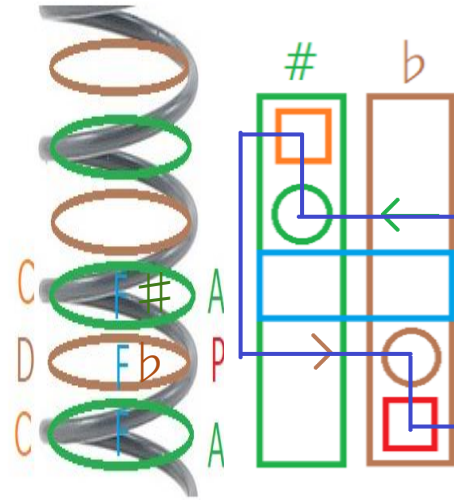
優しい  
Credit  
BtoB  
支持層

美しい  
Trust  
BtoC  
客層

# 多層性の俯瞰



## 断面

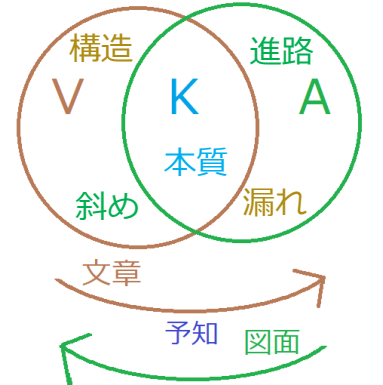


# Transitional

## Landscala

表. 知情意体力

Crowd	活力	Order	流れ	
Type	b	#	Mode	
t	空	体	金	C
r	風	知	木	D
p	水	意	氷	F
q	地	情	土	A
v	火	力	炎	P
			flow	



機械化と情報化  
ものと言葉

時  
個 系列的

実装

エネルギーを次の平面への挑戦に用いたいのか、  
過去の平面で憩っていたいか？

マルクス主義、コミュニティ、女性性

[V]...視覚  
[A]...聴覚  
[K]...体感覚

臨場感と理論性

一層一層がかけ  
がえのない世界。  
多層性は可能性  
でもある。



# 需要の分類

- ▶ P 今の平面 (実現欲求)  
今を盛り上げていこう。
- ▶ C 次の平面 (実現欲求)  
次はこうしていこう。
- ▶ F 生活需要 (基本的欲求)  
生きる糧。
  - ▶ R 過去の平面 (承認欲求) 幻  
~なはずだったのに (強制)。~であるべき (兵器)。

平面・・・平面図(絵画, Vision)の内容、Plan。

- ▶ D 客層 観光バス、店舗のような
- ▶ A 支持層 路線バス、会社のような

皆、それぞれのパラダイム  
価値観, 世界観  
に沿った収入を得る。

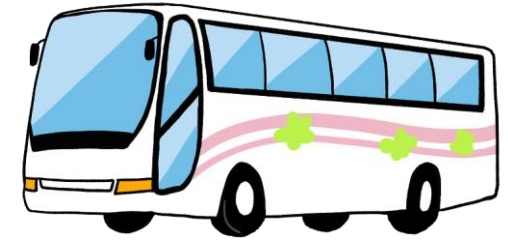
## 状況と本質、勘所

「時の成功者」を一步距離を  
おいてみて、「時流」を捉えて  
勘所を得る。

Conceptual art. 造形芸術

空気  
器

Limited.  
仕事は仕事。  
architype.



リード

信頼

落としどころ

共感 客層 価値

ペルソナ

命脈 支持層 評価

掴みどころ

信用

ファネル



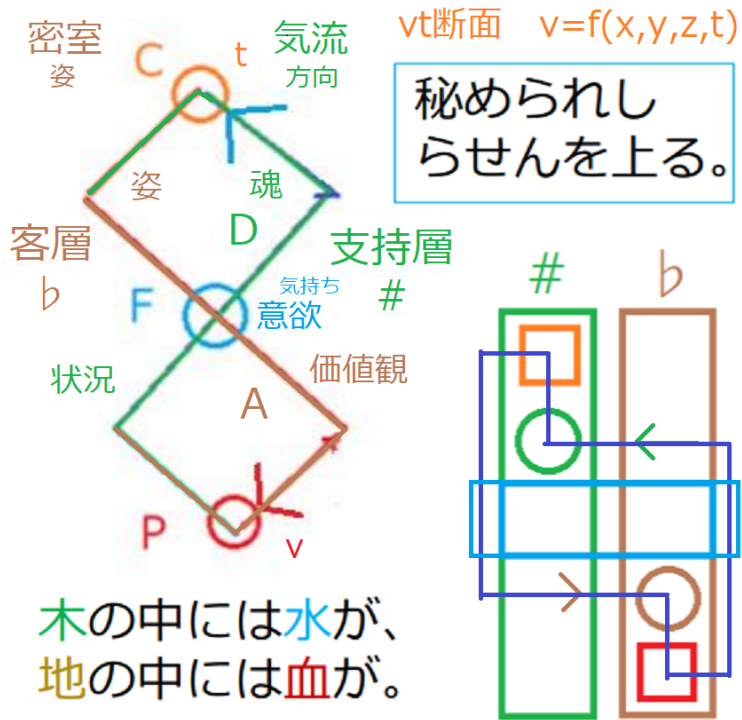
# 姿と魂(アイデンティティ)が切り離され

モードを定める者の存在

日本人にとって、  
タイミングtとは四季によって  
決められたもの。



## 337. 世界の四季性



密度  $v \times$  周期  $t$

自由主義

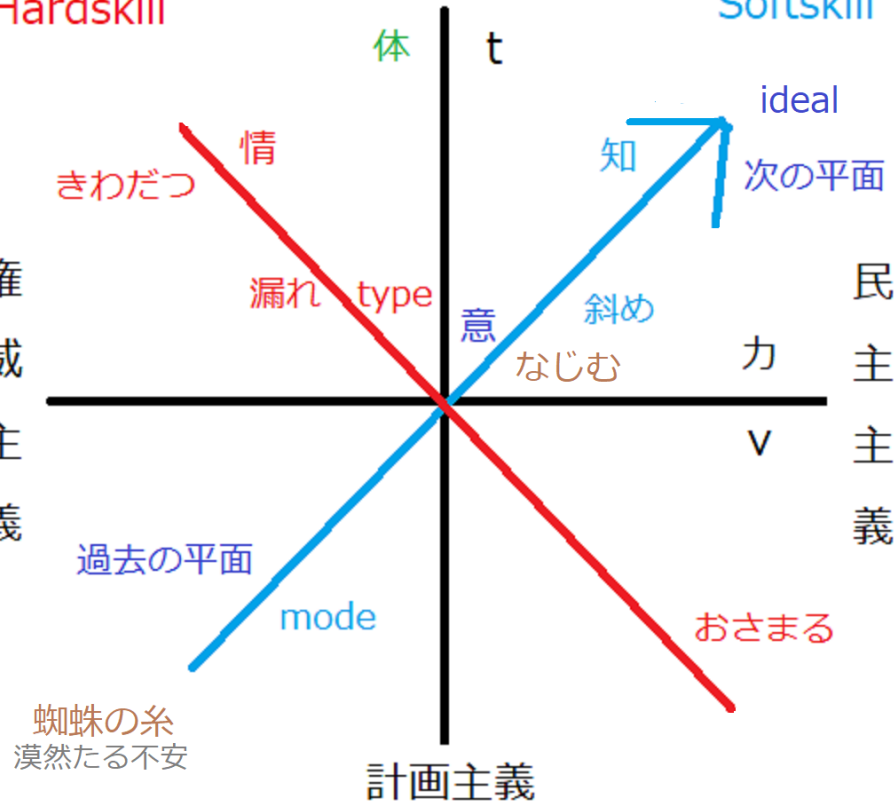
冬には種を育てる

Hardskill

Softskill

権威主義

民主主義



・越冬迎春  
理想を  
実体に刻む。

人間社会への  
細々した悩みは  
重心にて  
捉えられる。

アイデンティティ  
とは、重心なのでは？

# 冬には種を育てよう

もう、夏や秋ではないが  
やがて、春はやってくる。

less is more

▶ ミース・ファンデルローエとバウハウス



装飾は構造  
により支え  
られる。



重心のない所には、  
集客も景観もない。

あわてずに。  
季節外れの妄想は  
さておき。

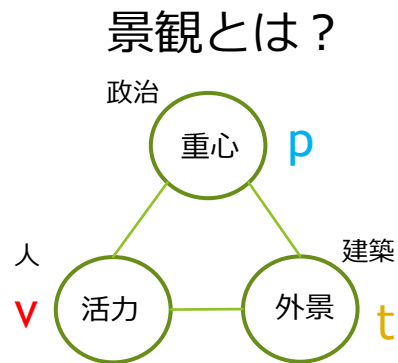
冬は温まろう。  
密度を高めて。





# まとめ

- ▶ v t 断面：密度 v × 周期 t
- ▶ 自由と伝統とは寄り添う。
- ▶ 冬には種を育てる



**結論**  
 景観を整えることとは、押しつけや全体主義ではなく人々が街の重心を感じることに。

**課題**  
 多分に定性的経験による故、社会心理学的な追試を要する。サイクルを検証していく。

# 参考文献

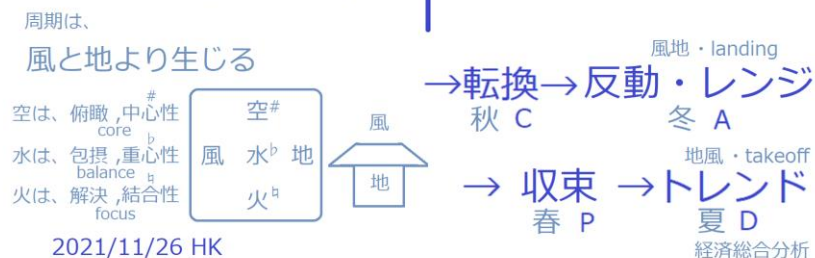
p: 街の重心が姿に表れる  
 t: 四季に耐えうるあり方

- ▶ 五十嵐太郎『美しい都市・醜い都市』、2006年。
- ▶ 井口勝文(他)『都市のデザイン—“きわだつ”から“おさまる”へ』、学芸出版社、2002年。
- ▶ ダロン・アセモグル『自由の命運(上・下)』、早川書房、2020年。
- ▶ アレックス・カー『ニッポン景観論』、2014年。
- ▶ アレックス・カー『美しき日本の残像』、朝日文庫、2000年。
- ▶ 桑原晃弥『トヨタのPDCA+F』、大和出版、2016年。
- ▶ 杉田佳穂『バウハウス』、東京美術、2020年。
- ▶ 仲正昌樹『人はなぜ自由から逃走するのか』、2020年。
- ▶ 林原琢磨『エレメンツコード』、2016年より。
- ▶ 松原 隆一郎『失われた景観』、PHP研究所、2002年。

(2021.11.26 増補版)

## 339. 風と地とのうねり

# landScala



# 影響力とは？

$$5=2^2+1$$

## 328. 左右の原理、俯瞰

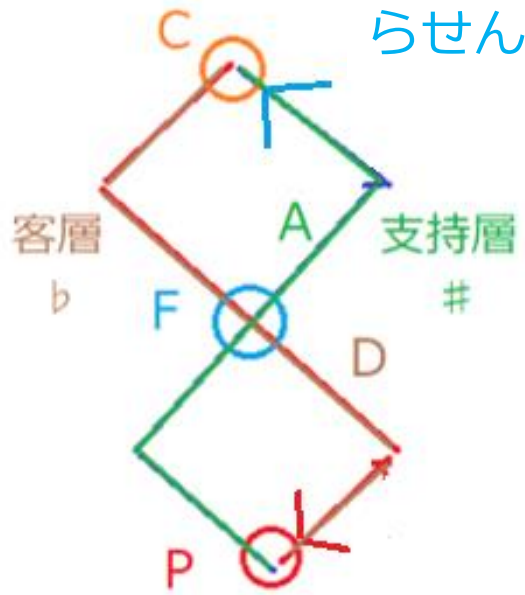
存在 . 自己実現 相対的剥奪

姿勢 凡

$$\text{影響力} = \text{自己効力感} \times \text{実力感} \times \text{労力}$$

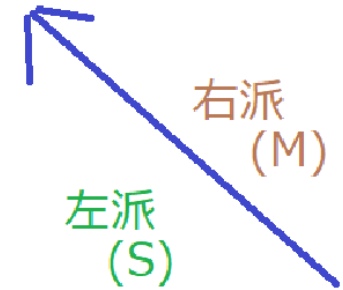
influence grade (標準比) stage power

優美なる回廊



自己効力感 流れ	正 良	負
姿 実力感	正 良 先導 仕事	負 地獄 娯楽
	負 暴風 趣味	保護 学業

左右の原理  
次の平面へ (N)



断面…Mission

適材適所

場面に応じて 気持ちの切り替え

批判、比較判断も、  
俯瞰した立場で行う。

2021/9/6 HK

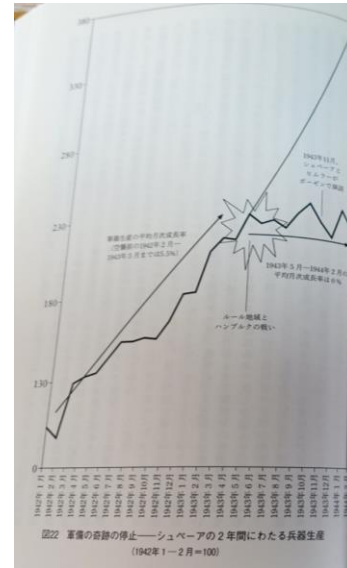
成長と発散



# 過去の平面

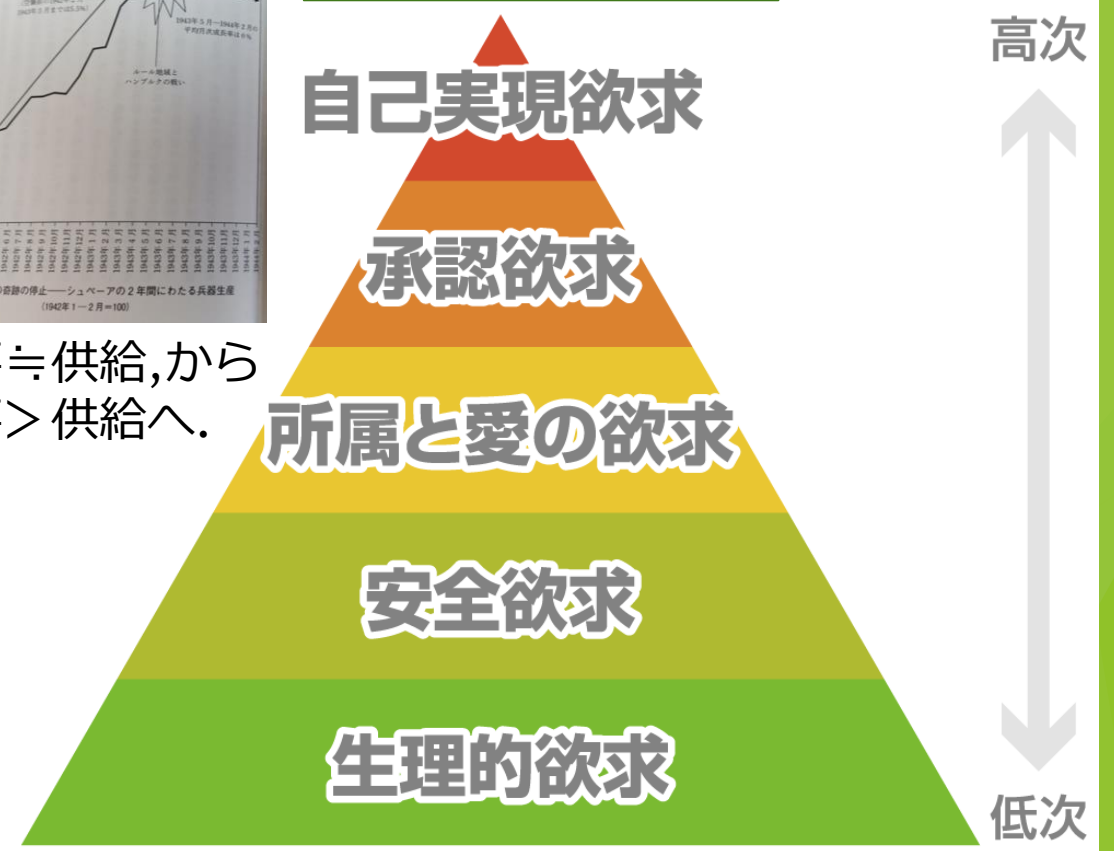
権威が計画を正当化

- ▶ ワーグナーは娯楽作品  
権威主義への転落。(アセモグル、p.257)  
当時のエリートも大学もそうだった。
- ▶ 経済が困窮しても、計画とともに軍事生産は上がり続ける(~1943.5)  
衝突後は停滞 (トウーズ p.653、680)
- ▶ 承認欲求、という、手前の段階に留まる  
本来の需要を食いつぶし、**Being 成長**  
次の平面が開けない。(B欲求)  
生産性が低下、略奪の正当化。(D欲求)
- ▶ 「美しい」けれど、優しいのか？ **欠乏 Deficiency**  
偶像崇拜であろう。



需要≒供給,から  
需要>供給へ.

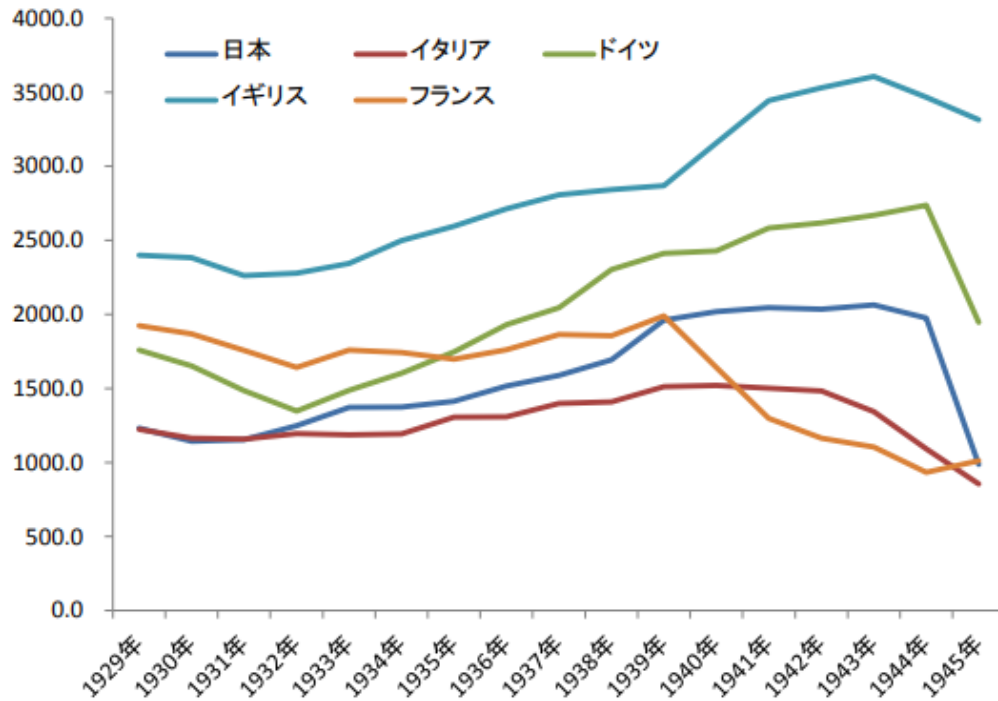
自律して価値形成、  
自立して世界認識。



マズローの欲求の階層論  
「人間の動機付けに関する理論」

# 国力と軍事費

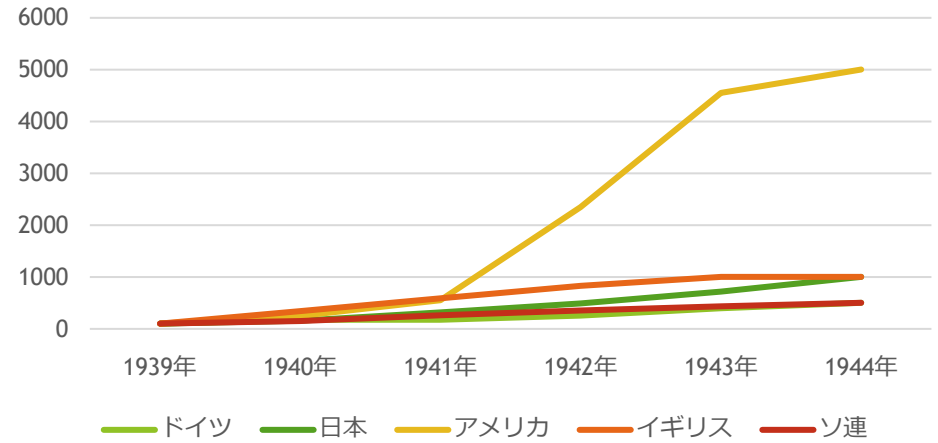
当時の主要国のGDPの推移



購買力平価で換算。(小松ダイスケ blog)

各国とも、軍事費率を上げていった。

軍事費の推移

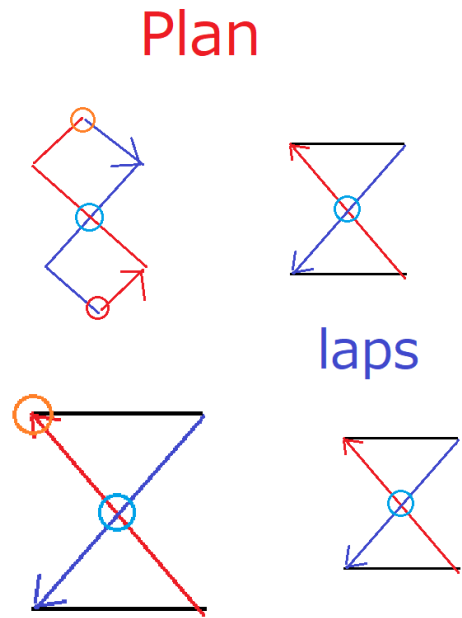


	1939年	1940年	1941年	1942年	1943年	1944年
ドイツ	100	175	175	255	400	500
日本	100	160	320	490	720	1000
アメリカ	100	250	550	2350	4550	5000
イギリス	100	340	590	830	1000	1000
ソ連	100	150	265	355	435	500

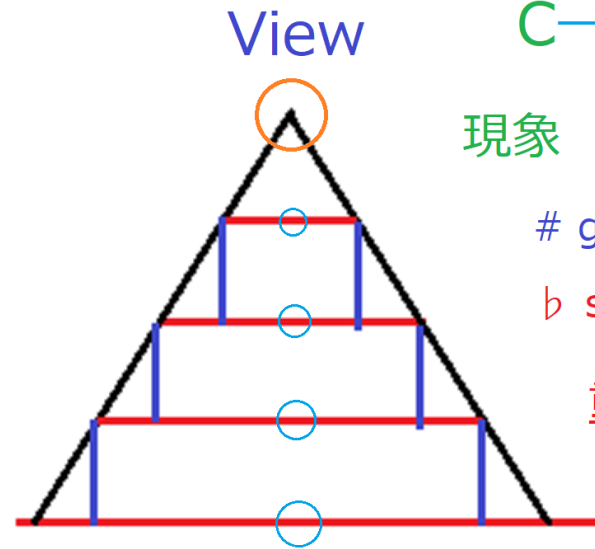
『ナチス・ドイツの経済』(Wikipedia)

# 俯瞰と実存

自己実現とは、贅沢などではなく、次の平面への真摯なる営みである。



俯瞰、設計



現象 実存

# grade 道

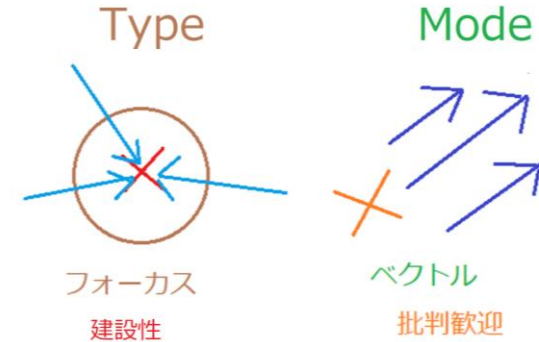
b stage 柱

重力

2021/9/19 HK

訴求 現実、世界

前へ進むには、少し展望を見てみる。



マズローらの論は、俯瞰した立場に立っている。

C.ロジャーズらの来談者中心療法は、そこから、クライアントの現実を支える姿勢である。

共感、受容、自己一致

# 3種類の層、大学

これらは互いに異次元にあつて、意識をする必要がある。

▶ 本質性 N<sub>q</sub> K<sub>v</sub>(**技**量) t(**作**風) 杭を打つ  
母数が支持層や客層よりも小さい。本質の獲得。

左右の分解を超えて、次の平面へ進む力がある。

▶ 支持層 S<sub>#</sub> A<sub>q</sub>p 専門的 信用 縦に伸びる  
左派、文系的 Supportive integrity

▶ 客層 M<sub>b</sub> V<sub>r</sub>p 総合的 信頼 横に広がる  
右派、理系的 Moderative cordiality

大学には、専門性に加えて教養性がある。  
教養には、層を捉えるのに役立ち、学ぶ  
と層に助けられることになる。



層を代える、層を開く。  
反対側は自覚して装飾する。

飢え 大衆性 D欲求 ↔ 本質 志向性 B欲求

欠乏に本質を  
投げかけて、  
引き上げる。

・本質の発露  
自由に存在するということ。  
例えば、光一体一金 と  
本来の自分を貫くことを、  
自分軸を貫くと言う。  
客層と支持層とでは、違う  
位置、流れ、性格になるが  
自信を持って歩む。

表. 知情意体力

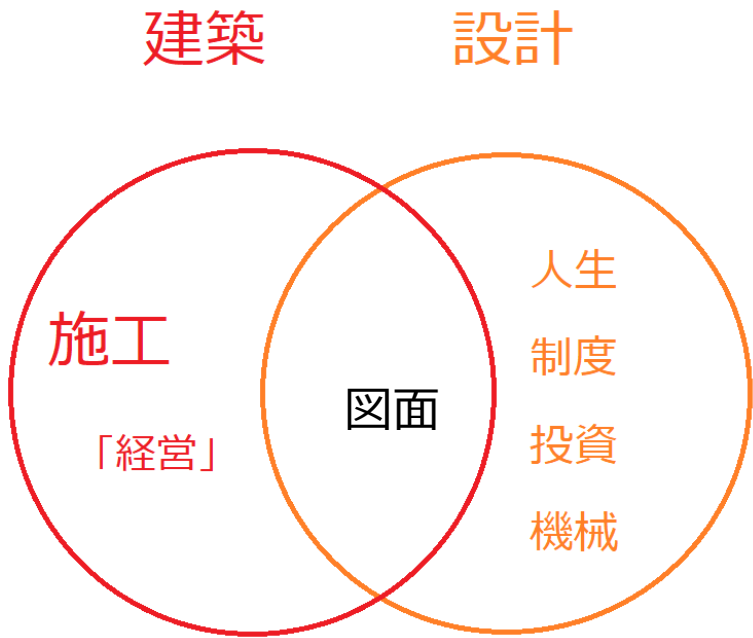
	b	q	#		
t	<del>空</del>	<del>体</del>	<del>金</del>	C	A
q	<del>風</del>	<del>知</del>	<del>木</del>	D	
p	<del>水</del>	<del>意</del>	<del>氷</del>	F	K
r	<del>地</del>	<del>情</del>	<del>土</del>	A	V
v	<del>火</del>	<del>力</del>	<del>炎</del>	P	

# 斜め、根差し、虚像

デザインとは、単なる常識に沿った装飾ではなく、設計でありクライアントの方向性を見出しそれを具現化するものである。その時代の客層に阿った常識に沿った装飾を下請けする、ということとは異なる。

・設計の責務  
倒れる、通れない、  
を取り除いて、  
合格点へ導くこと。

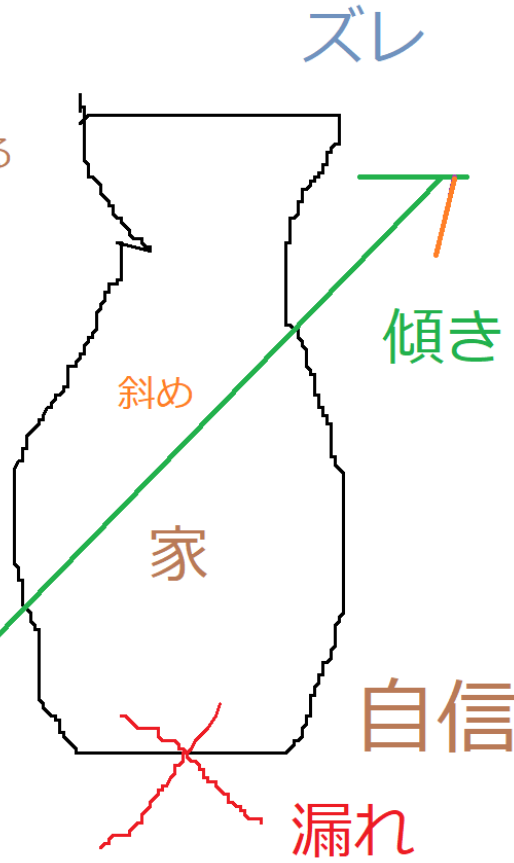
## 331. 設計の遍在



設計は遍在しているが、  
その全体像が語られることは余りなかった。

お金や力が欲しい  
というの、漏れている  
せいかもしれない。  
姿勢が斜めになって  
いると、視線の基調が  
傾いてしまう。  
自分が根差している  
位置も錯誤してしまう。

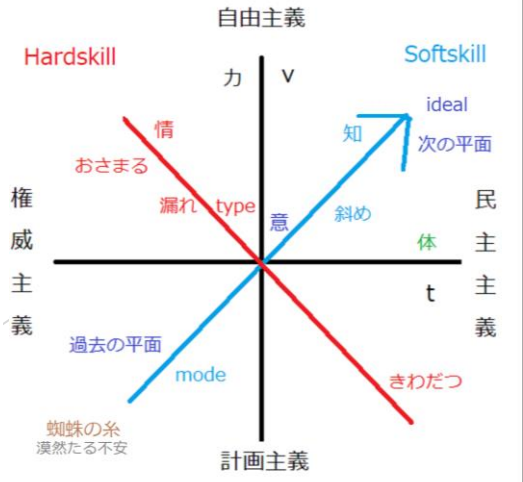
虚像  
孤独



自信  
漏れ

2021/10/1 HK

・経営の俯瞰  
設計もまた、  
「経営」の因習、  
習わし、文化に  
に諂うものと  
捉えがちであるが、  
設計こそは、  
社会をも包摂する  
ものである。






# まとめ

- ▶ 教育は、次の平面への滑走路たるべき。  
マズローやC・ロジャーズをどう伝えるか？
- ▶ ミース・ファンデルローエ（建築家）、の姿勢に次の平面への  
意欲が感じられる。
- ▶ 光を求めて  
優美なる回廊とは何か？

デザイン(design)  
とは設計であって、  
常識的に美しい装飾の  
ことではない。

## 前向きでかつ 実証が可能。

魂の発露  
社会の束縛  
魂の呪縛



・設計と実装  
一次のプランへの支持  
for the next step.  
そう難しく  
考えることはない。  
設計を前に進めて  
いけばいい。

が、多くの方は設計になじ  
みが無いから想像が  
難しいようである。

### 参考文献

- 中野 明『マズローを読む』、アルテ。  
佐治守夫『ロジャーズ・クライアント中心療法』、有斐閣。  
D・スペース『ミース・ファンデルローエ』  
A.トウズ『ナチス 破壊の経済』（上・下）  
仲正昌樹『人はなぜ自由から逃走するのか』  
アセモグル『自由の命運』（上・下）  
『トヨタのPDCA+F』  
鹿島茂『SとM』、幻冬舎。  
R・B・チャルディーニ『影響力の武器』、誠信書房。

# 研究の課題

空へ

- ▶ 都度、枠組みを定めれば、統計と各種の認識論との対話は可能である。  
地道に、着実に。
- ▶ 統計が、むしろ、想像力を補完し膨らませもする。
- ▶ 要検証点の自覚。影響力の式など。
- ▶ それらを総括していくことで、全体像を捉えていくことができるであろう。  
日常に活かしたい方がおられれば、客層や支持層に対して展開して  
いきたい。

社会の多層性

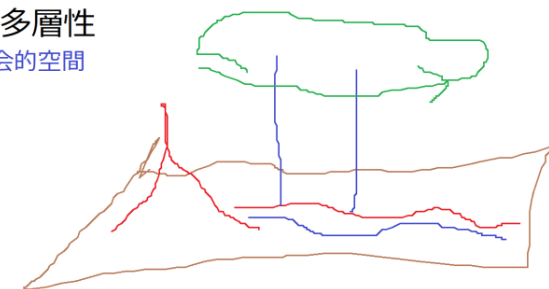
社会的空間

断面

vt-p

平面

qr-p



coincidence

多層性

設計とは、順路、水路など  
進路を描くものであり、  
外観的に常識が被せられる。

グレード0、ステージ0にも、  
中立という良い点はある。

急がば回れ。  
共に前へ歩を進めよう。

(2021.11.4 補訂版)